

マンガ版文学教材の分析—談話・文法的視点から—  
ANALYSIS OF A JAPANESE MANGA LITERATURE TEXTBOOK: A DISCOURSE  
AND GRAMMAR VIEWPOINT

下條光明, ニューヨーク州立バッファロー大学  
Mitsuaki Shimojo, University at Buffalo, The State University of New York

## 1. はじめに

本稿は、2011年に出版されたマンガ版文学教材「マンガ『坊ちゃん』」（増山和恵著、ゆまに書房）（以下『坊ちゃん』）を構成する四種類の談話を比較し、それぞれの談話的・文法的特徴を考察し、教材としての多様性および利点を探ることを目的とする。

## 2. 『坊ちゃん』の概要・構成

『坊ちゃん』は日本語を300時間程度学習した中級レベルの学習者を対象とし、原文小説を全11章で分割、内容をマンガ形式で表した文学教材である。全章を学習することで原文小説をおおまかにではあるが一通りの内容を網羅することができ、マンガ形式を用いることで「物語のあらすじ、場面の様子、人物の気持ちなどが理解しやすく、日本文学を身近なものにするねらいがある（増山, 2011: 4）。また、小説の理解を通して、日本文化および価値観、また生活習慣などについて考える機会も作ることができる。さらに、近年特に上級レベルを中心にいわゆるコンテンツベース授業が導入されてきているが（近松, 2011; 渡辺, 2011 など）、「坊ちゃん」に関連する地理、歴史、社会、経済などの知識を日本語を用いて学ぶことで、コンテンツベース授業の要素も取り入れることができる。各章のマンガには単語・表現の英訳、および関連文法を解説する脚注がある。巻末には語彙索引に加えて、夏目漱石の紹介や、明治時代の歴史・社会的背景、漱石の作品の概要などが日英語の両方で用意されており、日本の近代小説や「坊ちゃん」に初めて触れる学習者への配慮も施されている。また各章の音声ファイル、内容質問や練習問題、また自主学習教材が著者および出版社のウェブサイトで用意されている。

教科書の構成であるが、『坊ちゃん』は各章の主要部（各章につき10ページから16ページ）にマンガを使用しており、全体としては、マンガ中の吹き出し、マンガ中のナレーション、各章の初めに登場人物の一人が章の内容を紹介する「読む前に」、および各章末に原文の一部の抜粋とその内容についての質問、とこれらの合計四種の談話テキストで構成されている。すなわち、同じ原文の内容を四つの異なる談話スタイルを用いて内容を提示することで、同一小説の内容を扱いながらも、学習者が多様な談話スタイルや文法的特性に触れることで一冊の教科書の可能性を最大限に引き出すことができると考えられる。以下、『坊ちゃん』を構成するそれぞれの談話テキストの談話的・文法的特性を考察し、教科書としての多様性を示唆したい。

## 3. 「読む前に」

各章の「読む前に」は、特定の登場人物がその章の内容に触れ、学習者にあらかじめどのような内容なのかを紹介する役割を担う。第1章では主人公坊ちゃんの子供の頃を振り返る内容で始まり、この章での中心人物となる清について触れる(①参照)。ここでの談話スタイルは語りであるが、章の内容や人物を紹介するという目的がある。第1章のように登場人物が自身について語る場合もあるが、他の章では清や同僚教師や校長、生徒など第三者が坊ちゃんについて語るものもある。また、第1章では「だ体」が使われているが他の章の「読む前に」では「です・ます体」も使われている。


通常、語り手が自分について語る場合、一人称代名詞は省略される場合が多いが、「俺」や「私」なども省略せずに多く使われていることから書き言葉的で、日常会話とは異なるフォーマルなスタイルであることがわかる。一文あたりの長さも比較的長く、第1章から第5章までの「読む前に」の平均文字数は29.6字となっている。

また、構文的特徴として、文の長さとも関係するが、「～が」などの等位接続、「～から」や


「～ので」などの副詞的従属、テ形接続、目的格補語、名詞修飾節など重文・複文使用など多岐にわたる。

さらに、語り手による談話のため、「～てもらう・くれる・いただく」などの授受表現、また、特定の視点にもとづく「～ていく・くる」や、語り手を主語にした受け身形の使用など、いわゆる立場志向文が多く見られる。

①



### 第1章を読む前に



坊っちゃん

俺は江戸っ子だ。

この物語は俺が子供の時の話から始まる。

俺は小さい時から無鉄砲で、親を困らせてばかりいた。

しかし、奉公人の清は生みの親よりもなぜか俺のことをかわいがってくれた。

清はいつも俺のことを「まっすぐで、いい気性だ」と言ってくれたんだ。

大学卒業後、そんな清と別れる日が来る。

困らせる to trouble someone	[V(て form) ばかり] nothing but ~	生みの親 one's true parents
気性 disposition		

## 4. マンガの吹き出し

マンガの吹き出しは他の三つの談話と異なり、登場人物の発話で構成される会話である(②③参照)。書き言葉同様、話し言葉でも様々なジャンルの違いがあるが(メイナード, 2005)、『坊ちゃん』の吹き出しでも異なるジャンルが認められる。インフォーマルな日常会話のみならず、授業や会議での発言、発表や報告、また面接や独り言など多岐にわたる。また、話し相手との人間関係や発話状況のフォーマル度により話し言葉の丁寧度が異なる。送別会のスピーチや職員会議ではフォーマルな話し方、飲み会、喧嘩や独り言ではインフォーマルな話し方、また女性の話し言葉の丁寧度が一律に高いのも時代的背景から理解できる。

語りの談話とは異なり、会話では常に視点の転換が起こる。語彙や文法的特徴としては、「こ・そ・あ・ど」の指示詞が多用され、文主語は話し手や聞き手を示すことが多く省略の頻度が高い。文の長さも短く、第1章全体で吹き出し一文あたりの平均文字数は11.7字であり、「読む前に」の平均文字数の約1/3となっている。

使用構文は単文が圧倒的に多いが、テ形接続や理由(「～から・ので」など)や時を表す副詞節(「～まで」など)も見られる。

吹き出しに見られる語彙で最も顕著なものは間投詞である。「やーい!」「わーっ」「こらー!」

「でへへ」「あらよっと」など、感情の表現、呼びかけ、掛け声などが日本語でどう表現されるかが豊富に示されている。また、「学校を卒業したら家を持つから!な?」の「な?」(OK?)など、日本語教科書であまり見かけることのない話し言葉特有の終助詞の用法も観察される。また、吹き出しは書かれた会話文ではあるが、エクスクラメーションマーク「!」、疑問符「?」(助詞の「か」の

② 第1章 ☆ 清と坊っちゃん  
Kiyo and Botchan

① 時は明治 東京のある小学校にて

② やーい! 弱虫やーい!

③ てやんでえ!

④

① 時【とき】 (n) the time \*時は～ It was (the time/era of) ～ 明治【めいじ】 (n) Meiji Period (1868-1912)  
東京【とうきょう】 (n) Tokyo ある【Noun】 (adj-pn) a certain (place or person)  
小学校【しょうがっこう】 (n) elementary school  
やーい (int) hey \*Used when one ridicules or humiliates others.  
弱虫【よわむし】 (n) coward

② いくら【V(て form)】も (exp) No matter how much one does ～  
いばる (vs; vi) to brag; to boast about  
飛び降りる【とびおりる】 (vi, vi) to jump off of \*飛び降りる is a compound word of 飛ぶ (to fly; to jump) and 降りる (to go down; to get out/off). 飛びます【V(ます stem form)】+降りる => 飛び降りる  
～ん (aux) negative verb ending used in informal speech (abbr. of negative verb ending "ぬ・ない"). \*できんたらう = できないだらう

④ てやんでえ (exp) (vulg) What're you talking about?! \*This is an old Edo working-class dialect: 何、言ってやがる!  
=> 何、言ってやんでい => てやんでえ: 【V( form or ます stem form)】やがる indicates contempt, or disdain for another's action.

⑤ わー (int) Aahh; a crowd's excited roar \*The small っ at the end of the sentence convey an interruption, or emotions such as surprise, anger, and excitement, and is often followed by an exclamation mark (!).

後にも「？」が使われている)、および両者の組み合わせ「!？」、また間合いや語句の分離を表すダッシュ「——」、ためらい、思考や沈黙などを表現する三点リーダー「……」など、会話の語調のバリエーションが表現されている。これらの表記は普通マンガによく見られるが、語調が文字で確認できるので学習者にとっても有用だと思われる。

さらに、吹き出しの中にはないが、マンガに使われている語彙にオノマトペがある。オノマトペは最終章まで頻繁に使われており、擬音語(例:「ずっ」(味噌汁をすする)、「タンタン」(縁側を逆立で歩く)、「ジャーッ」(タオルを絞る)、「ドン!!」(かまどの角にぶつかる)、「ガラングラガラ」(物が崩れ落ちる))、擬態語(例:「はぐ」(ごはんをほおぼる)、「ニヤニヤ」(笑う)など)、それに擬情語(例:「ムー」(怒る)、「カチン!」(気に障る)など)も頻繁に使用されている。日本語のオノマトペにおける音象徴の規則性はある程度明らかにされてきたが(Hamano, 1998 など)、『坊ちゃん』ではマンガで描かれている文脈と照らし合わせて特定の音とイメージとの結びつきを考えられるのでわかりやすい。

### ③ 第1章: マンガ中の吹き出しの例 (抜粋)

同級生	「やーい！」
同級生	「弱虫やーい！」
同級生	「いくらいばっても、そこから飛び降りることはできんだろ う!？」
	「やーい」
坊ちゃん	「でやんでえ!」「わーっ」
同級生	「ワーッ」「本当に飛び降りたぞー」
父	「校舎の二階から飛び降りたー?」
母	「まあ、それで小使いさんにおぶわれて帰ってきたんですね。」

## 5. マンガ中のナレーション

「読む前に」と同様、ナレーションは特定の視点からの語りとなっている(②④参照)。ナレーションの大部分が「俺」(坊ちゃん)からの視点であるが、「——坊ちゃんの家」といったようにナレーターとの視点交替も見られる。文構造は吹き出しと同様、単文や「～が (but)」などを使う等位接続が多く、複文は比較的少ない。主語は一人称(俺)の場合、省略されることもあるが、第三者や無生物主語も多く全体として、主語の省略は比較的少ない。文は比較的短く、第1章のナレーションの一文あたりの平均文字数は13.3字で、吹き出しの一文平均とほぼ同じである。

### ④ 第1章: マンガ中のナレーション

「——時は明治 東京のある小学校にて——」  
「——坊ちゃんの家」

「——また、ある日友達と畑で相撲をとっていた。」  
「その夜」  
「俺の無鉄砲は母を死ぬまでなやませた。」  
「奉公人の清はよい家の出だったが、明治維新で落ちぶれてしまったそうだ。」  
「しかし、不思議と俺をかわいがってくれた。」  
「口癖は、」  
「こんな俺を」  
「なぜか……」  
「母が死んで、六年後に親父も死んだ。」  
「俺には兄がいたが、仕事で九州に行くことになった。それで兄は家を売った。」  
「三年後——」  
「大学を卒業し、教師として四国に行くことになった。俺は清に会いに行った。」  
「清は風邪を引いて寝込んでいた。」  
「出発の日 駅にて——」  
「——振り向いたら」  
「清はやっぱり立っていた。」  
「何だか大変小さく見えた。」

ナレーションには談話構造上の大切な役割がある。談話には内部構成が存在し、書き言葉で言えば段落が談話の単位を示す（メイナード、2005、第2章参照）。『坊ちゃん』の場合、各章がひとまとまりのエピソードを表すが、各エピソードにも内部構成が認められ複数の異なる談話単位が存在する。ナレーションはマンガの段落も示し、時の経過や場所の変化、またストーリーの転機などでナレーションの使用が多い。④の例に見られるように「——時は明治 東京のある小学校にて——」「——坊ちゃんの家」「——また、ある日友達と畑で相撲をとっていた。」「その夜」「三年後——」「出発の日 駅にて——」はすべて時や場所の設定を示し、書き言葉で言えば新しい段落に相当する。

また、日本語では新しい談話単位への移行時に、既出の登場人物やトピックが「～は」や「～が」を伴って再



導入されることが観察されてきたが (Maynard, 1987, 会話においては Shimojo, 2005 を参照)、『坊ちゃん』のナレーションでも類似パターンが観察され、新しい談話単位の冒頭において坊ちゃん自身を再導入する「俺は」の使用が頻繁に観察される。⑤の例は小説の終盤で坊ちゃんが東京に戻り清と再会するシーンであるが、コマ 94 で新しい談話単位へと移行し、そのナレーションで「俺」が再導入されている。それに対して引き続くコマ 95 は同じ談話単位でありそのナレーションでは「俺」(「立派な玄関付きの家は借りられなかったが」の主語)は省略されている。

ナレーションには談話構造表示機能の他に、視点の客体化機能もある。マンガの吹き出しが話し手の視点からの発話であることは前述したが、坊ちゃん視点のナレーションが坊ちゃん自身の心情を語る場面も多々ある。これは坊ちゃんが心の中で考えていることがナレーションを通して表現されているのであるが、それに加えて、ナレーターの方がマンガで描かれている自分を客体表示する効果もあると考えられる。⑥

では四国に向けて出発する坊ちゃん的心情をナレーター視点の坊ちゃんが語るシーンであるが、ここでは「語り手は物語の外側に移動し、「私」から離れた視座から「私」を見つめている」(メイナード, 2005: 452)という客体化効果があると言える。



## 6. 原文の抜粋

最後に、原文の抜粋であるが、「読む前に」やナレーションと同様、原文は語りの形式であり坊ちゃん自身の視点から語られている (⑦参照)。

第 1 章の原文の抜粋の一文あたりの平均文字数は 29.9 字と比較的長く、「読む前に」と同程度の平均文字数であるが、原文には極端に長い文も見受けられる。第 1 章の原文の抜粋で最も長い文は「車を並べて停車場へ着いて、プラットフォームの上へ出た時、車へ乗り込んだおれの顔をじっと見て「もうお別れになるかも知れません。随分ご機嫌よう」と小さな声で云った。」で、この文は 80 字からなる。文の長さと同様に、様々な副詞的従属節、テ形接続、目的格補語、名詞修飾節など複文使用が多岐にわたる。また、原文の特徴として、同一文中におけるテ形接続の連続使用や、複数の複文構文の使用がある。例えば第 1 章「原文②」では (⑦参照)、「汽車がよっぽど動き出してから、もう大丈夫だろうと思って、窓から首を出して、振り向いたら、やっぱり立っていた。」で、「～か

ら」を伴う副詞節、「～と思う」の目的格補語、テ形接続が2回、さらに「～たら」伴う副詞節、これらすべてが同一文に使われている。言うまでもなく原文の読解には文構造の正確な理解が要求される。原文ではマンガのような視覚的なインプットがないため、個々の単語や文構造の理解に集中したボトムアップ的な文プロセッシングに偏ると考えられるが、この点で学習者があらかじめマンガを使って話の展開や文脈を理解した上で原文に挑戦することは、学習者の原文読解に大変有効であると考えられる。

文要素の省略で興味深いのは、原文では主語が坊ちゃん自身の場合、「おれ」が省略されることが多い一方で、省略されない場合は主語が交替する場合であり、対比関係を伴うことが多い。例えば、第1章「原文②」(⑦参照)では、「おれ」が主語となっている場合が一ヶ所だけあるが、ここは「(清の)目に涙が一杯たまっている。おれは泣かなかった。」というところで、泣いている清と泣かなかった俺との対比関係が認められる。その他の登場人物が主語となる場合は省略されない場合が多いが、唯一の例外が清であり、第1章「原文②」で見られるように清が主語の場合も省略が多い。その理由としては複数考えられるが、清は坊ちゃんに次ぐ主要登場人物であり、文主語

で受ける場合が多く(すなわち主題性が高く)省略しやすいことがあげられる。またそれと関連するが、坊ちゃん自身とともに清の主語省略が多いということは、語り手の坊ちゃんによる清との視点共有、つまり心理的な近さを示唆しているとも考えられる。

**原文に挑戦しましょう**

ウエブの練習問題(186ページ参照)をしてから、チャレンジしてみよう。  
次の場面は、第1章のマンガのどのコマかわかりますか。引用文(Quotation)の後の質問に答えましょう。

**原文①**

親読りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。小学校にいる時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と嘲したからである。小使に負ぶさって帰って来た時、おやじが大きな眼をして二階ぐらいから飛び降りて腰を抜かす奴があるかと言ったから、この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

【原文①の質問】どうして無鉄砲は「親読み」だと言っていますか。お父さんのどんなところが無鉄砲なのかですか。

**原文②**

出立の日には朝から来て、いろいろ世話をやいた。来る途中小間物屋で買って来た菌磨と楊子と手拭をズツクの革靴に入れてくれた。そんな物は入らないと言つてもなかなか承知しない。車を並べて停車場へ着いて、プラットフォームの上へ出た時、車へ乗り込んだおれの顔をじっと見て「もうお別れになるかもしれない。ずいぶんご機嫌よう」と小さな声で云った。目に涙がいつばいたまっている。おれは泣かなかった。しかしもう少しで泣くところであった。汽車がよつほど動き出してから、もう大丈夫だろうと思って、窓から首を出して、振り向いたら、やっぱり立っていた。何だか大変小さく見えた。

【原文②の質問】坊ちゃんは車で清と別れる時に泣きましたか。坊ちゃんと清はどんな気持ちだったでしょうか。

## 7. まとめ

本稿ではマンガ版文学教材『坊ちゃん』を構成する四種類の談話を比較し、それぞれの談話的・文法的特徴の考察を試みた。『坊ちゃん』では原文小説を四種の異なる談話を組み合わせて提供することで、他の中・上級教科書や原文のみの文学作品では扱いにくい談話ジャンルの多様性を一冊で提供している点で利用価値が高い。ただし、本稿で扱ったような談話的・文法的な特徴は学習者が小説（あるいはマンガ）の内容理解だけに集中しては見えない部分が多い。そのため、指導者がこれらの談話テキストの違いを把握し、どの談話でどのような言語使用があるのかを理解した上で、それらの要素も学習活動に取り入れていくことで、より深みのある学習活動を促すことができると考えられる。

## 参考文献

- 近松暢子 (2011) 「ツールを超えた思考プロセスとしての日本語へ：コンテンツベースにおける批判的・創造的思考活動の可能性」 『Journal CAJLE』 12, 1-22
- 増山和恵 (2011) 『英語圏版マンガ「坊ちゃん」』 ゆまに書房
- メイナード泉子・K (2005) 『日本語教育の現場で使える談話表現ハンドブック』 くろしお出版
- 渡辺素和子 (2011) 「Content-Based Instruction における評価の問題と提案」 『Journal CAJLE』 12, 60-76
- Hamano, Shoko. (1998) *The Sound-symbolic System of Japanese*. Stanford, CA: CSLI.
- Maynard, Senko K. (1987) Thematization as a staging device in the Japanese narrative. In J. Hinds, S. K. Maynard, and S. Iwasaki (eds.), *Perspectives on Topicalization: the Case of Japanese WA*, 57-82. Amsterdam: John Benjamins.
- Shimojo, Mitsuaki. (2005) *Argument Encoding in Japanese Conversation*. Hampshire and New York: Palgrave Macmillan.